

環境活動レポート2017年度版

2017.05.01～2018.04.30

ver.1.3

発行日 2018年6月27日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆社員数 19名(就業役員を含む)
- ◆業務内容 紙製品の製造卸・小売業・賃貸業

◆事業所

- 本社 東京都港区麻布十番1-5-25
- 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
- 小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25 1F

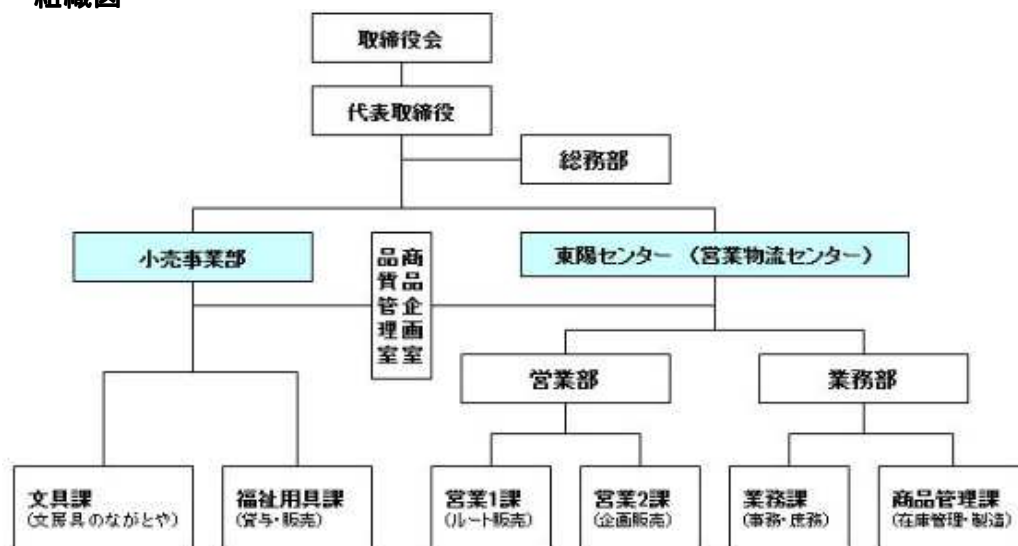
- ◆環境管理責任者 営業2課リーダー 佐竹英幸

◆事業規模

	2015年度	2016年度	2017年度
売上高(万円)	62,500	67,000	70,900

決算期末(6月)売上高

組織図



主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

環境方針

基本理念

当社は、紙加工品の商社として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として循環型社会形成に寄与する企業活動を展開して参ります。また、日常推進事項として以下に掲げる項目を継続的な環境配慮活動として取り組んで参ります。

活動方針

- 1 環境にやさしい商品づくり
 - ・環境負荷の少ない新商品の開発を進めて参ります。
 - ・既存商品の製造工程を見直して、環境負荷を軽減します。
 - ・商品の包装や梱包資材などを簡略化し環境負荷を軽減します。
 - ・在庫管理を効率的に行い、入出庫に関わる物流エネルギーの削減に努めます。
 - ・商品の売上の一部を「森林保護活動」や「海洋保全活動」の為に役立てます。
- 2 省エネルギー
 - ・資源やエネルギーの消費による環境負荷を認識し、限りある資源の保全に努めます。
- 3 廃棄物削減と汚染防止
 - ・資源固有の特性を有効に活用し、廃棄物の抑制に取り組み環境汚染の防止に努めます。
- 4 関連法規制順守
 - ・企業活動に関係する環境関連法規・条例・規制等を順守致します。
- 5 グリーン購入
 - ・日常業務において使用する社用品にはグリーン製品を積極的に使用します。
- 6 環境活動に関する継続的持続
 - ・環境負荷に関する内容をデータ管理し、目標を設定し継続的に持続達成に努めます。
- 7 環境活動の公表
 - ・環境活動の計画及び実施状況を「環境活動レポート」としてとりまとめて公表致します。

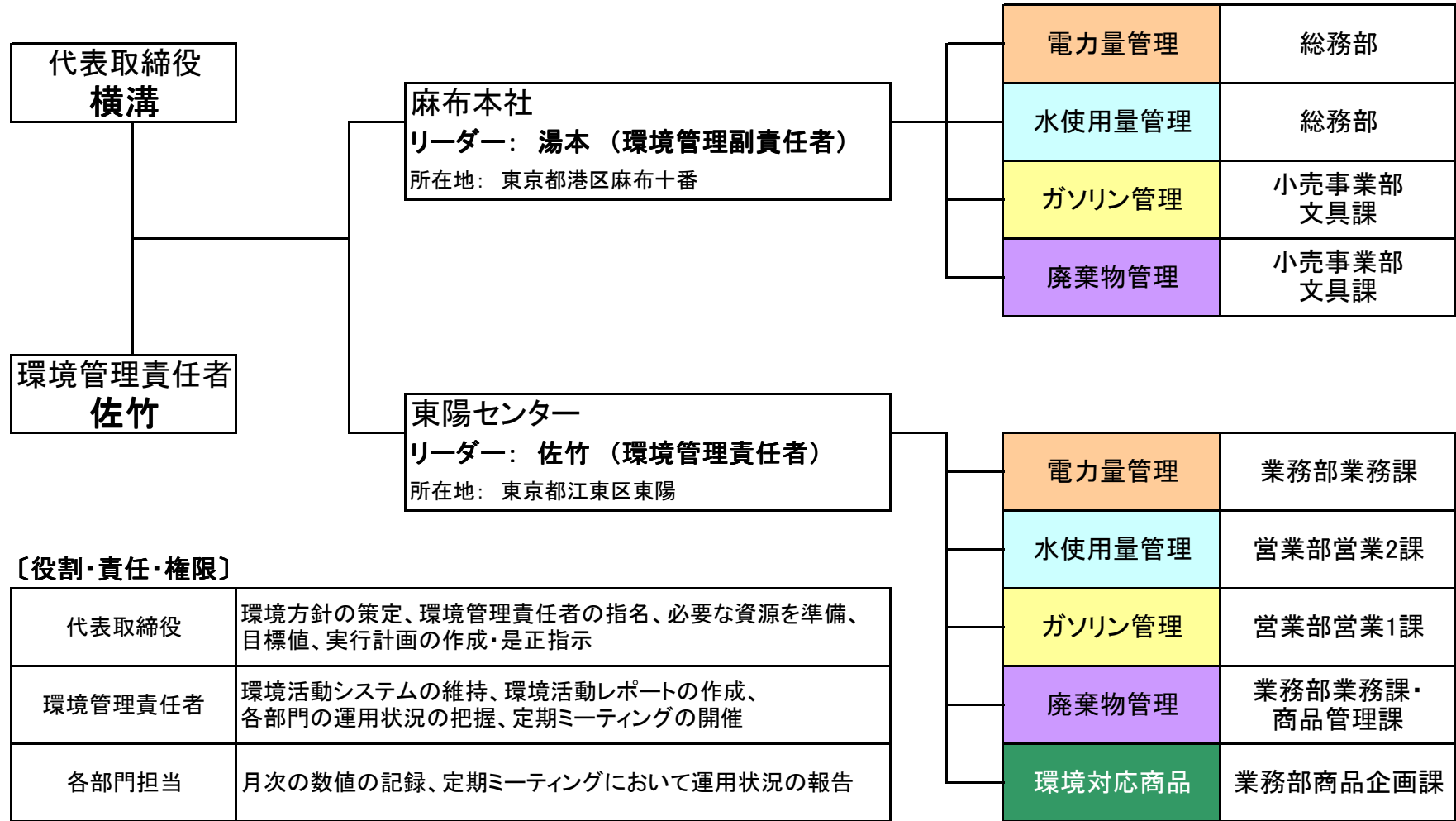
2006年11月01日制定

2015年8月3日改定 (ver3.0)

株式会社 長門屋商店

代表取締役 横溝純一

環境活動組織図



環境目標および達成状況一覧

実施事項	2016年度実績	2017年度実績	2017年度環境目標	目標達成状況
①-A 電力消費量	49,899kWh	51,402kWh 前年対比 +3.0%	48,500kWh (対2016年度-2.8%)	目標対比 +6.0% ×
①-B ガソリン給油量	6,657リットル	5,669リットル 前年対比 -14.8%	6,300リットル (対2016年度-5.3%)	目標対比 -10.0% ○
①排出CO2削減	36,287 kg	34,638 kg 前年対比 -4.5%	34,500 kg (対2016年度-4.9%)	目標対比 +0.4% △
② 水使用量	208m3	206m3 前年対比 -1.0%	207m3 (対2016年度-0.4%)	目標対比 -0.5% ○
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	689.1kg	582.4kg 前年対比 -15.5%	660.0kg (対2016年度-4.2%)	目標対比 -11.8% ○
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	3757.0kg	4092.7kg 前年対比 +8.9%	3500.0kg (対2016年度-6.8%)	目標対比 +16.9% ×
④ 環境対応商品売上高	27,575万円	27,448万円 前年対比 -0.5%	29,000万円 (対2016年度5.1%)	目標対比 -5.4% ×

※使用排出係数: 購入電力0.000486(t-CO₂/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO₂/l)

○は設定目標達成 △は設定目標に及ばずも前年実績より良化 ×は目標・前年実績ともクリアできず

①-A 電力消費量の削減

本社ビル	2015年度	2016年度	2017年度
購入電力量(1)	30,586kWh	29,857kWh	31,147kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	563kWh	685kWh	678kWh
実質電力消費量(1)+(2)	31,149kWh	30,542kWh	31,825kWh
前年比		98.05%	104.20%

東陽センター	2015年度	2016年度	2017年度
購入電力量(1)	10,111kWh	13,007kWh	13,044kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	6,144kWh	6,350kWh	6,533kWh
実質電力消費量(1)+(2)	16,255kWh	19,357kWh	19,577kWh
前年比		119.08%	101.14%

全社合計	2015年度	2016年度	2017年度
購入電力量(1)	40,697kWh	42,864kWh	44,191kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	6,707kWh	7,035kWh	7,211kWh
実質電力消費量(1)+(2)	47,404kWh	49,899kWh	51,402kWh
前年比		105.26%	103.01%



前年対比 **+3.0%**

太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

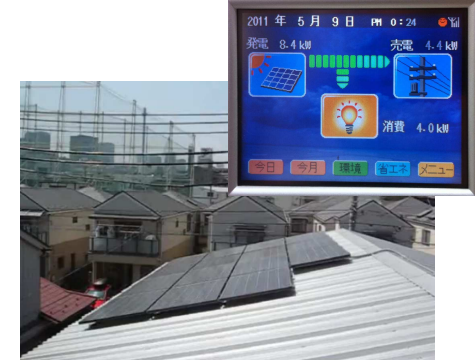
①-A 電力消費量の削減



↑ LED電球およびLED蛍光灯



本社 ソーラー設備 9.8kw



東陽センター ソーラー設備 10kw



↑ 温度管理へのさまざまな工夫



←OAタップ
で待機電流
OFF

■新規取組

- ◆東陽センターの作業場を外気の影響の少ない場所へ移設しました。移設にともない、よりこまめにスイッチが切れるよう配電を改変しました。
- ◆東陽センターの照明のLED比率を増やしました。

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 事務所にすだれの設置
- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF

①-A 電力消費量の削減



2016/6換装 小売事業部エアコン



2016/6導入 スポットエアコン



2018/5導入 新型LED照明(全9台)



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン

■今年度の評価

本社ビル:本社ビルにおいて消費電力量が増えた原因を調べたところ、エレベータと店舗の低圧電力がいずれも昨年対比で約20%増加していました。エレベータに関しては、今期はじめの2017年春ごろより、テナントの一部が休憩室として使われるようになり人の出入りが増加したため、と見られます。今後も人の出入りの多いテナントが増加することが見込まれますので、電力の節減は他のところで補う、といった工夫が必要です。店舗に関してはエアコンが低圧電力に該当しますが、付けっぱなしの時間が長かったようです。室温が適温になったらスイッチを切る、閉店1時間前になったらスイッチを切るなど、出来る工夫を再度確認・共有し実行していきます。

東陽センター:人員が増加した割には昨年比微増に留まりました。しかし、夏場、冬場の使用量が多くエアコンをはじめとする空調関係の使用に起因すると見られます。外気温にもよりますが、必要のない空調を切るなど節約できる余地はあるので、社員の皆さんに協力いただき、うまくコントロールして行なって参ります。

■次年度へ

次年度においては、2018年5月に東陽センターを改築し、機器を増設した影響が出て参ります(作業室のエアコン1台、最新LED照明9台)。使用電力量の増加をある程度織り込んではおりますが、休憩時や使っていない場所の照明は切る、定時以降は使用箇所をなるべく限定するなど、できることを積み重ねて削減の努力を引き続き行いたい。

①-B ガソリン給油量の削減



↑ダッシュボードに表示

	2015年度	2016年度	2017年度
給油量	7,537L	6,657L	5,669L
前年比		88.32%	85.16%

前年対比 -14.8%

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2015年度	2016年度	2017年度
全車合計走行距離	85395km	83015km	64530km
前年比		97.21%	77.73%
一台あたり燃費	11.33km/L	12.47km/L	11.38km/L
前年比		110.06%	91.28%

■新規取組

●営業ルートを見直しし、3ルートから2ルートに減らしました。空いた1台の車両は短距離の配達用に振り替えました。

■取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
(①アクセルワーク51%以下②アイドリングストップ③エアコンは控え目④タイヤの空気圧チェック)
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

配達ルートを減らし、車の台数が減った分昨年比の給油量が大幅に削減されました(約15%減)。一台あたりの燃費が悪くなっておりますが、車両が減った分、各車両の積載量が増えた影響によるので、総合的には全車合計走行距離減による給油量の減少が大きく、かなり良化できました。
次年度以降の課題としては、燃費の悪い車両を低燃費の車両に切り替えるなどの余地はありますが、これ以上の車両減は難しいので、引き続き低燃費運転を心がけていただくよう、進めて参ります。

①Co2排出量削減



CO2排出係数	使用数値
購入電力 (環境省HP/東京電力)	0.000486 t-CO2/kWh
ガソリン (EA21ガイドライン)	2.32166 kg-CO2/l

※購入電力の係数は2017年12月21日公表値の実排出係数を使用しました。

全社合計	2015年度	2016年度	2017年度
本社ビル 排出CO2	14,865kg	14,511kg	15,137kg
購入電力 購入量	30,586kWh	29,857kWh	31,147kWh
東陽センター 排出CO2	4,914kg	6,321kg	6,339kg
購入電力 購入量	10,111kWh	13,007kWh	13,044kWh
全社ガソリン 排出CO2	17,498kg	15,455kg	13,161kg
給油量 購入量	7,537L	6,657L	5,669L
排出CO2総量	37,277kg	36,287kg	34,638kg
前年比		97.34%	95.46%

【参考】

	2015年度	2016年度	2017年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	59.64 kg-CO2/万円	54.16 kg-CO2/万円	48.86 kg-CO2/万円
前年比		90.81%	90.21%

オフセット計算	2017年度
本社ビル 総発電量	10,330kWh
東陽センター 総発電量	11,500kWh
発電量合計	21,830kWh

※計測端末の値を引用

購入電力での排出量
⇒ **10,609kg 相当**

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 24,029kg

なお、昨年のオフセット後の排出量は 26,165kg でした。

② 水使用量削減



本社ビル	2015年度	2016年度	2017年度
上下水道	42m3	42m3	37m3
前年比		100.00%	88.10%

東陽センター	2015年度	2016年度	2017年度
上下水道	167m3	166m3	169m3
前年比		99.40%	101.81%

全社合計	2015年度	2016年度	2017年度
上下水道	209m3	208m3	206m3
前年比		99.52%	99.04%

■設備導入

特になし

■取組

雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

本社ビル: 大幅減ですが、設備面等外的要因は変化がないので、単純に節水の意識が進んだためと思います。引き続き継続していけるよう、意識を持って取り組んで参ります。
東陽センター: 社員増のため、微増でした(2%弱)。社員数名入れ替わりがありましたので、あらためて水使用に関する意識の共有を図り、削減活動に取り組んで参ります。

前年対比 -1.0%

③ 廃棄物の排出量削減



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 東陽センターでは3種の分別ゴミ箱を用意しています。

可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)

熱回収/埋立	2015年度	2016年度	2017年度
本社ビル	147.0kg	208.7kg	37.3kg
東陽センター	489.2kg	480.4kg	545.1kg
合計	636.2kg	689.1kg	582.4kg
前年比		108.31%	84.52%

■ 新規取組

本社ビルの分別方法を変更(プラ類を不燃ごみに出していたところをプラに)。ダンボールは業者に再利用用途として返却するようにした。

■ 継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用
- ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分別回収
- ペーパーレスの促進
- ペットボトルとキャップの分別収集

プラ・古紙・ダンボール (再生)

再生	2015年度	2016年度	2017年度
本社ビル	533.0kg	1380.0kg	933.1kg
東陽センター	2926.3kg	2377.0kg	3159.6kg
合計	3459.3kg	3757.0kg	4092.7kg
前年比		108.61%	108.94%

■ 評価・次年度へ

本社ビル: 東陽センターの排出方法に倣い、不燃ごみとしてまとめていたビニール袋などをプラゴミとして分別するようになり、熱回収に関わるものは大幅に減りました。その分再生に関わる量が増えるところですが、ダンボールは全て問屋に再利用を任せるようになったことで、結果的に目標値はクリアとなりました。

東陽センター: 熱回収・再生ともに昨年比大幅に増加しました。ダンボールの再利用・ゴミの少量化などの意識はかなり進んでいるので、設備の改築・配置換えに伴う不要物を処分した影響が大きいと見えています。また、分別に関して再生に回せるものも一部可燃ゴミに入っているものが見受けられるので、分別がよりわかりやすいような表示をするなど、改善に取り組んで参ります。

④ 環境対応商品の売上高アップ ※自社ブランド製品の卸販売高



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙
「環境紙G80」



売上の一部をWWFの南西諸島保全へ
寄付している「美彩紙」

■対象商品

- 売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- 原料に廃材や再生材を使用している。
- 非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

ほぼ前年並の微減でした。環境対応商品の新商品は旧商品のリニューアルに留まり商品数としては同数でした。新商品を増やしていかないことには売上高アップはなかなか難しいですが、新商品開発にはスペース的な問題や、開発に相当なエネルギーを必要とするなど、簡単には進まないの、現商品のバリエーションを増やすなどできることを積み重ねていくことで対応して参ります。

	2015年度	2016年度	2017年度
環境対応商品	26,401万円	27,575万円	27,448万円
前年比		104.45%	99.54%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 -0.5%



ーオイスカ「子供の森」計画支援ー

「子供の森」計画はこどもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。
(2017年度実績: 519,582円)



ーWWF「南西諸島プロジェクト」支援ー

WWFジャパンは、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島全体の生態系保全を目的とした「南西諸島プロジェクト」(南西諸島エコリージョン)に取り組んでいます。
これまでの「しらほサンゴ村」支援と同様、南西諸島の生物多様性の保全のために「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。(2017年度実績: 343,129円)



特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真的ように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策(アイドリングストップ) 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業系一般廃棄物に関して 	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者の責務・減量義務等 	○	遵守
江東区環境基本条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第7条(事業者の責務)ほか 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
家庭用品品質表示法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障子紙が該当 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自賠責・納税・走行ルール 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース会社・販売会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
小型家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払 	○	遵守
資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 使用済みの事業系パソコンの排出 	○	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 設置のパッケージエアコン等の簡易点検 	○	遵守

2018年6月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

2018年度～2020年度の設定 中期環境目標

実施事項	2017年度実績	2018年度目標	3カ年での中期目標
①-A 電力消費量	51,402kWh	50,800kWh 前年対比 -1.2%	2019年度 50,000kWh (対2017年度-2.7%) 2020年度 49,200kWh (対2017年度-4.2%)
①-B ガソリン給油量	5,669リットル	5,550リットル 前年対比 -2.1%	2019年度 5,400リットル (対2017年度-4.7%) 2020年度 5,300リットル (対2017年度-6.5%)
①排出CO2削減 ※購入電力量+ガソリン給油量より(※)	34,638 kg	34,000 kg 前年対比 -1.8%	2019年度 33,300 kg (対2017年度-3.8%) 2020年度 32,600 kg (対2017年度-5.8%)
② 水使用量	206m3	205m3 前年対比 -0.5%	2019年度 204m3 (対2017年度-0.9%) 2020年度 203m3 (対2017年度-1.4%)
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	582.4kg	560.0kg 前年対比 -3.8%	2019年度 540.0kg (対2017年度-7.2%) 2020年度 520.0kg (対2017年度-10.7%)
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	4092.7kg	3800.0kg 前年対比 -7.2%	2019年度 3700.0kg (対2017年度-9.5%) 2020年度 3600.0kg (対2017年度-12%)
④ 環境対応商品売上高	27,448万円	29,000万円 前年対比 +5.7%	2019年度 30,000万円 (対2017年度+9.2%) 2020年度 31,000万円 (対2017年度+12.9%)
⑤従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※使用排出係数: 購入電力0.000486(t-CO₂/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO₂/l)

環境管理責任者の総評 および 代表者の総括

■環境管理責任者の総評

エコアクション21を開始から10年担当してきた中島よりバトンタッチいたしました。
中島がはじめた当初は何もないところから作り上げていく作業からのスタートでしたので、大変な労苦があったようです。
私自身がまだまだ見習いの段階で、実質的な責任者としての本格稼働は来季からになりますが、現在は方法等確立されていて環境の整ったところからのスタートのため負担がかなり軽減されており、お陰様でスムーズに入ることができております。
今年度の総評としては目標達成と未達が半々程度、ガソリン給油量など目標を大幅に達成した項目もあるので、点数をつけるとすれば70点程度でしょうか。
電力消費量の削減をはじめ次年度以降の伸びしろはまだまだあると見ておりますので、点数の上積みをしていけるよう進めて参りたいと思います。
今後活動を持続継続していくにあたり、社員皆さんの協力なくしては成り立たせるのは困難です。
それをどう推し進めていくかが私の課題と認識しており、定期的なミーティングの開催等、持続・継続するための取り組みを引き続き行なって参りたいと考えております。
私自身も一員としても率先して関わり、より意識を高め取り組んでいくとともに、皆さんへ引き続きの協力を呼びかけ、この活動に取り組んでいく所存です。

2018年6月11日

佐竹英幸

■代表者による総括

【当該年度の総括】

認証取得から10年を契機に、今年度初頭に環境管理責任者の変更を行いました。新任となった佐竹は勤続10年の中堅的な社員であり、本人の更なる成長にも期待するところがあります。

人員について、当該年度は全社的な雇用形成が3増2減となりました。2名のベテラン・中堅社員が退社し、3名の若手社員が新たに加わっております。よって新人3名に向けてはEA21を主管とした環境経営活動についてレクチャーを施す事に注力致しました。環境経営には、それに関わる社員一人一人の意識がとても重要です。当社は雇用面において安定性が在るのが強みです。離職率が大変低く、新規採用の機会が少ないのが特徴の一つです。

新人3名の今後の成長と貢献には大きく期待を寄せているところです。

さて総括として特筆したい点は、【Co2排出量削減】の項目において継続的削減を実施することが出来たことです。削減目標値には僅か及びみせんでしたが、削減幅は及第点です。前年度の麻布小売部店舗における売り場増床改修工事に伴うによる照明機器増設の影響を懸念しておりましたが、大幅な削減を実現できたことは評価に値すると考えております。

反省点としては、【環境対応商品の売上高アップ】の実績を初めて減少させてしまう結果となりました。これは当該の中心的商品である「環境紙」のリニューアルにより移行期間中の売上減が要因であると捉えております。【廃棄物の排出量削減】においては、まだまだ改善の余地があり、一層の努力が必要だと認識しております。廃棄物の更なる細分化はもちろんのことですが、次年度においてはシステムの再構築を検討します。

【次年度の見直しや改善指示】

「環境方針」「環境活動計画」「環境経営」については、次年度も変更なく継続して参ります。目標設定においては、東陽センター内改修工事による照明及び空調設備の増設に伴い、「電力消費量」の目標値の見直しを環境活動責任者へ指示致しました。

「廃棄物排出量の削減」については、システムを再検討するよう担当者に指示いたします。

2018年6月11日

代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3

TEL 03-5690-7131

FAX 03-5690-8010